



【イエスキリストの空き墓をご覧ください】

本日の聖書箇所:マルコの福音書16:1-11/暗唱:ローマ書4章25節

説教者: 鄭南哲牧師

復活の朝、我々の主イエスキリストの平安と復活の望みがみなさんの溢れますようにイエス・キリストの御名によって祝福します。いままで世界の多くの法律家たちがイエス様の復活を証するたくさんの本を記録したことはとても意味深いことの一つです。あらゆる証拠と状況を論理的に分析する法律家たちがイエス様の復活を黙想しながら否定できない明白な証拠を持っているイエス様の復活を証言しました。世界のギネスブックに弁護牛として成功した者として記録されているライオネルラクラブは連続して245件の事件を勝訴(しょうそ)した弁護牛ですが、彼はイエス様の復活の証拠を法律と証拠に基づいて検討し次のような告白をしました。

“イエス様の復活の証拠に圧倒されて疑いの何の余地もなくこの事実を受け入れざるを得なかった”と告白しました。イエス様の復活を証言している福音書の中で、今日はマルコの福音書16章の御言葉を通してもう一度イエスキリストの復活を確信し、この復活の主を証するみなさんとなりますよう切に祈ります。

「イエス様の復活の証拠：逆説的なイエス様の復活の証拠と記録」

イエス様の復活の当時、イエス様の弟子たちの姿はとってもアイラニカルです。なぜなら、実際イエス様の復活を体験した弟子たちはみんな信じ難かったという点です。それだけではなくイエス様の復活を見ては震え上がりました。

今日の本文によるとイエス様のお墓に行った女たちはマグダラのマリヤとヤコブの母マリヤとサロメですが、彼女らはイエス様の十字架のところまでついて行ったし、イエス様がお墓に葬られることも見守ったはずだし、イエス様に対する信仰もとっても深かったはずの女たちでしたが、復活のイエス様に出会ってからは震え上がってお墓から逃げ去りました。そして、だれにも何も言えませんでした(8節)。ほかの福音書によると、弟子たちでさえイエス様の復活を期待してなかったことがわかります。よみがえるとイエス様から直接聞いていた弟子たちだったのにもかかわらず、人間の経験と常識では当然越える出来事でありえないことだったので、しばらくイエス様の復活は期待もしませんでした。実際イエス様が三日目によみがえられたご自身が現れる時さえも弟子たちはしばらく信じ難い反応を示していました。

ヨハネの福音書20章3-10節を読んでみましょうか。ペテロともう一人の弟子が直接イエス様のお墓に行ってイエス様を巻いていた亜麻布が置いてあって、イエス様の頭に巻かれていた布切れは、亜麻布と一緒になく、離れた所に巻かれたままになっていたのを見たのにもかかわらず、9節に“彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していなかったのである。”と記されています。

今日の聖書の本文11節をみると、イエス様に出会った後マグダラマリヤがほかの弟子たちに行って復活のお知らせを伝えた時、それを信じようとした弟子たちはいなかったと書かれています。

“ところが、彼らは、イエスが生きておられ、お姿をよく見た、と聞いても、それを信じようとはしなかった。”今日もそうですが、イエス様の時にイエス様についていた人々にとってイエス様の復活の出来事は信じられないのは当然かも知れません。それにもかかわらず、イエス様の復活は実際起こったし、復活されたイエス様ご自身を通して復活の記録が事実である事を表してくれます。

かりにイエス様の復活に関する聖書の記録が弟子たちが勝手にもしくはうそでイエス様の復活を記録したなら、決して聖書はこんなに正直に記録されなかったと思います。ほかの人々を信じさせるためにうそをついた人々が自分たちも信じようとしなかったということばかり書いて他の人を信じさせようとしたとは考えられません。聖書はイエス様の復活について率直に、起こされた事実通りによく、そしてとっても逆説的に証して下さっています。

今日私とみなさんはイエス様の復活を感謝し喜びをもって礼拝していますが、心からイエス様の復活を信じていますか。イエス様の復活を身近で迎えた彼らのように我々の心と信仰にもある面イエス様の復活に対する驚きとショックと恐れがあるべきではないかと思えます。我々の問題はイエス様の復活という出来事にはあまりにも慣れてしまい全然感激も驚きもない事かも知れません。

二番目に、イエス様の復活に対して注目すべきことは、福音書は全部イエスキリストの復活の始めの証人たちは女たちであると記録されたところです。マルコの福音書16章1節に“さて、安息日が終わったので、マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤとサロメとは、イエスに油を塗りに行こうと思い、香料を買った。”と書かれています。週の始まりの日の朝、つまり今日で言うと、主日の朝早く女らはお墓に行きました。イエス様の十字架の一番近くにいた女たちが安息の日の次の朝イエス様のお墓に向かった理由は何でしょうか。イエス様の遺体に油を塗るため

でした。イエス様が死なれたのは金曜日の午後でした。次の日が安息日だったので、お墓に安置されるため遺体をととのえる時間がありませんでした。当時、十字架の上で処刑された罪人の遺体はお墓に安置されることはありませんでした。十字架の死刑で死んだすべての遺体はみな鳥や獣のえさとして投げ捨てられたからです。ただ、イエス様のみが旧約の預言の通りに金持ちのお墓に葬られました。

“彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者とともに葬られた。彼は暴虐を行なわず、その口に欺きはなかったが。”（イザヤ書53：9）

この預言を成就するためにイエス様が頼んでもないのに、神様はアリマタヤのヨセフを用いて洞窟のような墓にイエス様を安置させて下さったのです。ですから、血まみれになったまま、お墓に安置されていることを知っていた女らがだれよりも早くイエス様のお墓に走って来たわけです。そういうわけで彼女らは復活の初の証人となり、空っぽのお墓と御使いたちのお告げを通してイエス様の復活を知り、後には復活されたイエス様に出会えたのです。

愛する信仰の家族のみなさん。一度ゆっくり考えてみて下さい。当時イエス様の時代に女たちは無視され差別される存在でした。代表的に女たちは人口調査にも含まれなかった時代でした。女たちの証言や証拠は法的に認められてない時代でした。もし、神様の御言葉である聖書が、イエス様の復活に対して多くの人々を信じさせるために弟子たちが作り上げた偽りの物語であったなら、決して女たちからの証言で始まらなかったと思います。実際起こった出来事であれば決して女たちをイエス様の復活の初証人として登場させなかったはずです。ニコデモや他の男性、もしくは弟子たちで始まったはずです。ですから、言わば、イエス様の復活の出来事は真に起こった事実がそのまま記録された事実であったことが分かります。

もう一つイエス様の復活に対する確かな証拠は、イエス様がおかれたお墓のところが空いたということです。

今日の本文の3-4節をみてください。“彼女たちは、「墓の入口からあの石をころがしてくれる人が、だれかいるのでしょうか。」とみなで話し合っていた。ところが、目を上げて見ると、あれほど大きな石だったのに、その石がすでにころがしてあった。”彼女たちがイエス様のお墓に来て見たら、イエス様のお墓を封じていた大きな石がすでにころがしてあったのです。事実決して女たちもまったく予想できなかった光景だったと思います。切なる思いで、心配しながらただイエス様のお墓に向かって行ったのです。イエス様のお墓の入り口を封じていたその石が1トン以上であったので、男子10人が押しでも動かされなかったからです。神様はそのため悩んでいた彼女たちの心を知っておられ、御使いたちを通してすでにお墓の入り口に封じていた石を開けておいてくださいました。

マタイの福音書28章2-4節で“すると、大きな地震が起こった。それは、主の使いが天から降りて来て、石をわきへころがして、その上にすわったからである。その顔は、いなずまのように輝き、その衣は雪のように白かった。番兵たちは、御使いを見て恐ろしさのあまり震え上がり、死人のようになった。”

御使いたちがお墓の石をころがし、お墓を開けておいたのはなぜだったのでしょうか。墓の中におられたイエス様が出られなかったから助けてお墓から出られるようにするため開けたのでは決してありません。外で来る女たちと弟子たちに、そしてだれにでもイエス様がお言葉通りによみがえられ、そのお墓が空いている姿が見られるようにするためでありました。

イエス様のお墓についてもう一つ注目したいところは、イエス様のお墓をローマの兵士たちが厳重に見張っていたと言う事実です。本来ならば、お墓をローマの兵士たちが見張る必要はいっさいありません。そうしなくても男子10人が動かそうとしてもできないほど大きな石でお墓は封じられていました。

他の福音書によると、これはユダヤの宗教指導者たちがローマ総督のピラトに懇請し、兵士たちをイエス様のお墓を見張るように配置したのです。ところが、なぜユダヤの宗教指導者たちはそのように求めたのですか。ユダヤの宗教指導者たちはイエス様が語られたように三日目によみがえられる事が気になったからでした。

愛する信仰の家族のみなさん！本当にアイロニーではないでしょうか。いざイエス様の弟子たちは最初イエス様によみがえられた事を信じがたく行動してたのに、実際イエスキリストを十字架につけたユダヤの指導者たちは表ではイエス様の弟子たちとかだれかがイエス様の遺体を盗もうとするからイエス様のお墓を見張らなければならないと主張してしまいましたが、実際に彼らはイエス様の御業をずっと目撃し、よく知っていたので、イエス様が預言された通りよみがえられる出来事に対して知り、恐れを持っていたからでした。つまり、その意味は彼らは実際にイエスキリストの復活を信じていたという事でもあります（参考マタイ27章62-66節）。

続けてマタイの福音書によると、イエス様の復活の知らせを聞いて知っていながらユダヤ人の指導者たちは多額の金で兵士たちを買って(マタイ28:12-15参照)イエスの弟子たちがイエスの遺体を盗んでいったと言いふらすようにしました。みなさん！もしイエス様が復活されず、イエス様の弟子たちがイエス様の遺体を盗んだとすると、イエス様の復活を信じる信仰よりもさらに大きい信仰が必要になります。解決されるべき課題がもっと多いからです。

一つ目に、イエス様の石の墓を見張っていた兵士たちが眠っている間、あんなに大きい石がころがされるのに、一人もそれに気づかされなかったのはそれ自体が理解しがたいです。

二つ目に、かりに弟子たちが本当にイエス様の遺体を盗んでおいてイエスが復活されたとするなら、イエス様の弟子たちは遺体を盗んだ罪があります。そしたら、その罪を問いかけてみんな捕まえて死刑を下すことのできる権力者たちではありませんか？それにもかかわらず、なぜ弟子たちを拘束（こうそく）しなかったのでしょうか？イエス様の復活が事実だったので、どうしようもできなかったのです。

三つ目に、イエス様の弟子たちの心理状態はどうでしたか？ もしもイエス様の遺体を盗んだのであれば、十字架の上でのイエスを遠くから眺めながら自分たちも同じくされるのではないかと恐れて逃げて行った弟子たちが一日の間、集まってイエス様の遺体を盗んでイエス様が復活されたかのようにすべての計画と企みをしたということはとうてい理解できない部分です。イエス様の復活を聞いてむしろ恐れていた弟子たちではありませんか？後に、イエス様の弟子たちは全員復活されたイエス様を伝えながら殉教者の列（れつ）に入ることになります。イエス様の復活を自分の目で見て確信しなくてどうして自分の命まで捨てることができるのでしょうか？もし、弟子たちがイエス様の遺体を盗んだとしたら、それがうそだったとだれかが告げ口する人が一人もいたはずです。

最後に、弟子たちがイエス様の遺体を盗んだとしたら、その墓の中の様子が理解できません。

“イエスの頭に巻かれていた布切れは、亜麻布といっしょにはなく、離れた所に巻かれたままになっているのを見た。（ヨハネの福音書 20：7）” イエス様の遺体を盗んでいったら、短い時間緊迫の間、亜麻布に包んだまま遺体を運ばないといけないんじゃないでしょうか。まだ血まみれになっているイエスの遺体を巻いていた亜麻布をはずして、それだけでなくイエスの頭に巻かれていた布切れは別のところにちゃんとたたんでおいていくおろかな者がいるのでしょうか？これらのすべての証拠をとおして、すこしだけ考えてみても弟子たちが盗んだと言う主張はいつわりであって、むしろイエス様の復活を信じさせないためにさらに大きい信仰を持たなければならないほどイエス様の復活は明確な事実である事が分かります。

これ以外にも今日までイエス様の復活を否定する様々な主張があります。ある人はイエスは死なないで、ただ気絶したと主張します。実際に死んだのではないということです。これはローマの兵士たちを無視することです。十字架の処刑を知らない人たちの話にすぎません。ある人々は女たちやイエス様の弟子たちが間違った墓に行ったと主張します。実際にイエス様が置かれていた墓ではなく空っぽの墓だったとも主張します。これももっと理解しがたいです。ある人々はイエスを愛して信じたゆえにみたまぼろしを見ただけだとも言われます。しかし、みなさん。一人でもなく 500人以上が同時にみるまぼろしはありません。ある人はローマの兵士たちが盗んだと主張します。ローマの兵士たちがなぜ命をかけてイエスの遺体を盗んで問題をさらに多くしますか。そのはずはありません。最近の説ではイエスは双子だったという主張もあります。イエスが死んだのは事実だが、もう一人の双子の弟が兄の代わりに復活されたかのようにしたということです。

ただ単純に信じれば解決されるものの、信じないようにもがいている人々の姿を見ながら我々の主はどんなにかなしいだろうかと思えます。我々はイエス様の置かれていた空いたお墓をみながらイエス様の復活をすなおに信じることが出来ますようにお祈りします。本文の 6－7 節は白い衣を来ていた御使いが現われ言われる場面です。

“青年は言った。「驚いてはいけません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょう。あの方はよみがえられました。ここにはおられません。ご覧なさい。ここがあの方の納められた所です。ですから行って、お弟子たちとペテロに、『イエスは、あなたがたより先にガリラヤへ 行かれます。前に言われたとおり、そこでお会いできます。』とそう言いなさい。」”

十字架につけられ死なれた神の子イエス・キリストは復活されました。“ここにはおられません。前から言っておられたように、よみがえられたからです。来て、納めてあった場所を見てごらんください。（マタイ 28:6）” だれでもこの復活されたイエス様を信じ受け入れる者には死をうちやぶったイエスキリストの永遠の命が与えられると神様は約束されました。イギリスの有名なチャールズスボルジョン牧師はいつも信徒たちにこうお願いしたそうです。“イエス様の空いたお墓をよく確認してみてください。よみがえられた神の御子イエスを信じる私とみなさんのお墓もそのようにされると信じましょう。”

主の復活を信じ、確信しているのなら、イエス様のお墓にとどまらないで、イエス様の復活を大胆につたえるべきではありませんか。復活の初穂となられたイエス様の空いたお墓のように我々の墓もそうなると思えます。死んでもふたたび生き返らされ永遠の御国で永遠のいのちをもって生きれると思えます。ついに復活されたイエス・キリストの復活信仰によって勝利して行きましょう。イエスキリストの復活を信じる皆さんのうえに復活の御業と祝福が豊かに注がれるクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の家族みなさんとなりますように切にお祈り申し上げます。アーメン！